

住宅用火災警報器（住警器）奏功事例詳細

事例内容	被害
<p>こんろに鍋をかけてそのまま外出したところ、寝室と居間にあった警報器が発報し、隣の住人が焦げる臭いとピピピッという音に気づき煙を発見し、消防に通報した。</p>	鍋の内容物の炭化のみ
<p>みそ汁をこんろにかけたまま寝てしまい、台所に設置された警報器が発報。その音に気付くと部屋中煙で充満しており、こんろの鍋からは煙が出ているのを発見。急いでスイッチを切り、消防に通報した。</p>	鍋の内容物の炭化のみ
<p>冷凍食品を電子レンジで調理中に別の部屋にいたところ、警報音が聞こえたため確認すると、電子レンジから煙が出て部屋中に充満していたため、消防に通報した。</p>	レンジ内の冷凍食品が焦げた
<p>住人が鍋をこんろにかけたまま外出後、隣人が住宅用火災警報器の鳴動と異臭及び煙が見えたため消防に通報した。</p>	鍋の内容物の炭化のみ
<p>住人が鍋に火をかけたまま外出後、寝室とリビングに設置していた住宅用火災警報器が鳴ったため、隣人が音に気付いて119番通報した。</p>	鍋の内容物が焦げたのみ
<p>住人が鍋に火をかけたままソファで就寝。その後、台所の隣の部屋に設置していた住宅用火災警報器が鳴ったため、隣人が音に気付いて通報した。</p>	鍋の内容物が焦げたのみ
<p>寝室にて電気ストーブを点けたまま就寝。掛布団が電気ストーブに接触し出火する。台所設置の住宅用火災警報器の音で火災に気付いた住人らにより初期消火成功。</p>	掛布団と床の一部が焦げる
<p>住人が鍋を火にかけたまま外出。リビング設置の住宅用火災警報器の音と異臭、煙に気付いた隣接建物住人が119番通報する。</p>	鍋の内容物が焦げたのみ
<p>残り火のある灰を燃え尽きたと思いゴミ箱へ捨てる。ゴミ箱から出火するが住宅用火災警報器の音で火災に気づきペットボトルの水で初期消火成功する。</p>	ゴミ箱と畳の一部が焼けたのみ
<p>一般住宅2階から出火するが、住宅用火災警報器の音で3階にいた家族が火災に気づき、避難、通報、初期消火に成功する。</p>	床と電化製品が焼けるが、最小限に留める
<p>住人が鍋の空焚きをしてしまう。住人は目が不自由であったが住宅用火災警報器の音と焦げ臭で鍋の空焚きに気づき、コンロの火を止め消防に通報する。</p>	鍋の内容物が少し焦げたのみ

事例内容	被害
<p>コンロで鍋に火をかけたまま放置、別の部屋にいた同居人が住宅用火災警報器の音で鍋からの煙に気づき、コンロの火を消しガス元栓を閉める。</p>	<p>鍋の内容物が焦げたのみ</p>
<p>共同住宅の住戸から住警器の鳴動音を聞いた隣人が所有者へ連絡し、その後消防へ通報。PCの配線が一部溶融していたところで発見に至る。</p>	<p>PC配線の一部溶融のみ</p>
<p>共同住宅の一室から出火。別住戸の住人が住警器の鳴動音に気づき119番通報。消防隊により出火住戸の住人を救助し、人的被害はでなかった。</p>	<p>畳間の一部焼損のみ</p>
<p>自宅内で煙を確認後、住警器の鳴動音に気づき119番通報。消防隊により火災でないことを確認する。</p>	<p>被害なし</p>
<p>部屋でくわえたばこをした際に、落ちた火種の一部が洋服に落ち、住人が外出後に出火。その後、隣人が外出しようとして玄関先に出た際に住宅用火災警報器の鳴動音と異臭に気づき、火災を発見。119番通報となる。なお、早期発見のため、被害は最小限に抑えられた。</p>	<p>部屋の一部の焼損のみ</p>
<p>オーブントースターでパンを焼いていた際、煙が発生し、住警器が鳴動したため119番通報となる。</p>	<p>パンの焦げのみ</p>
<p>住宅用火災警報器が鳴動し、建物住人が音のなる部屋に向かうと煙を上げている掃除機を発見。ベランダに移動させ、煙が消えるまで放置し、消防に連絡。この火災で受けた損害は掃除機のみとなる。</p>	<p>掃除機の一部のみが焼損</p>
<p>共同住宅に住む数名が警報音に気づき、1人は119番通報、もう1人が近くに住む大家から部屋の鍵を借り警報音の鳴る部屋を確認。コンロに火が付いており、鍋が空焚き状態のためそのままコンロの火を消し、非火災となる。</p>	<p>被害なし</p>
<p>(NEW) 付近を通りかかった通行人が住宅用火災警報器の音に気づき119番通報。後の聴取より所有者はコンロの火を消し忘れて外出したとのこと。</p>	<p>鍋が焦げた程度</p>